

Ⅲ 指導・育成

第7分科会 研究・研修

研究課題 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進 における校長の在り方

分科会の趣旨

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、国民の学校教育に対する期待に応えるためには、しなやかな知性と豊かな人間性をもつ子どもの育成を目指し、教育活動の直接の担い手である教職員が資質・能力をより一層高め、教育力を向上させることが求められる。

これからの教職員に必要とされる指導力は、教科指導・生徒指導・学級経営等の能力に加え危機管理能力や保護者等への対応力等をも含めた総合的な実践的指導力であり、児童や学校・地域の実情に合わせて柔軟かつ創造的に指導内容・方法を選択し、指導の充実を図っていく能力である。加えて、教職に対する強い情熱をもち、教育に関わる専門家として、保護者と連携・協働を図り、児童の人格形成によい影響を与える存在となることを期待されている。

校長は、教職員一人一人の学級経営力・生徒指導力・校務企画運営力などを見極め、個々に応じた的確なミッションと具体的な解決に向けたビジョンをもたせるとともに、教職員の資質・能力、チーム力の向上、学校経営への参画意識を高める研究・研修を進めていく必要がある。

本分科会では、教職員の資質や能力の向上を図り、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立と、その推進について、具体的方策と成果を明らかにする。

研究の視点

(1)教職員としての資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実

学校の教育力を高めるためには、個々の教員の指導力の向上と共通の目標の達成に向けて機能する教員集団をつくる必要がある。また、教員の資質・能力の向上のためには、職場の同僚同士のチームワークや学び合いによる全員のレベルアップを図る視点が必要となる。

校長は、教員一人一人の意識改革を促し、学校教育目標の実現に向けて、自校の実態や目指す姿を明らかにしながら、重点課題を絞り、教員の資質・能力が高まる校内研究体制の在り方を追究していかなければならない。

このような視点から、教員の資質・能力の向上を目指す校内研究、展望や参画意識等をもたせる研修を推進していくための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2)キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

学校の教育力は、教職員一人一人の資質・能力の向上と密接に関係している。現在、世代交代が進み、経験値の高い教職員の大量退職と、若い世代の大量採用の時を迎えている。また、少子化による学校の統廃合や小規模校の増加等の状況からも人材育成は喫緊の課題である。今後、年齢構成が変化する学校現場において、それぞれキャリアステージに応じた役割と求める資質・能力に応じた研修の充実が重要となる。校長は、意図的・計画的な研修の機会を設定し、教職員一人一人の資質・能力と参画意識を高める必要がある。

このような視点に立ち、教職員に将来の展望や学校経営への参画意識をもたせる研修を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第7分科会 「研究・研修」

研究課題 「学校の教育力を向上させる研究・研修の推進における校長の在り方」

1. 「研究課題」のもつ今日的な課題性や先見性、意識改革の必要性についての解説

我が国では、世界に類を見ない速さで少子・高齢化が進み、生産年齢人口の加速度的な減少も見込まれている。一方、世界ではグローバル化が急速に進展し、人やモノ、情報等が国境を越えて行き交い、目まぐるしい変化の中、激しい競争の時代を迎えている。さらに、コンピュータや人工知能が進歩し、人間が行っている半分の仕事を機械が行う時代がすぐそこまで来ているという予測もある。

今後訪れるこのような時代においては、人間にしかできない活動が重要になり、正解のない問いや自ら設定した課題に挑戦していく活動、創造性や高い専門性を発揮して行う活動、人間の感性や思いやりが求められる活動等が、これまで以上に強く求められることになる。

子どもたちをどのように育成していくかは日本の将来に大きく関わる問題である。したがって、学校における教育活動の成否は、子どもと直接接している教員の資質・能力に負うところが極めて大きく、教員の資質・能力の向上は子どもたちの教育の充実を図る上で重要なことは言うまでもない。

子どもたちに確かな学力や規範意識を身に付けさせ、社会を生き抜く力を養成する必要があるとともに、学校現場においては、グローバル化を踏まえた英語教育の強化、いじめ問題への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用や主体的・協働的で能動的な学びの推進など、複雑かつ多様な課題への対応が求められている。このため、教員としての高い使命感や倫理観・規範意識とともに、こうした課題に適切に対応できる、高い専門性と実践的な指導力などを十分に備えた教員が求められているのである。

これからの教員に求められる資質・能力とは、教師の仕事に対する使命感や誇りなど教職に対する強い情熱、人間の成長・発達についての深い理解、子どもに対する教育的愛情や責任感などの豊かな人間性や社会性、そして、生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力など教育の専門家としての確かな実践的指導力等である。さらに、教員という職業自体が社会的に特に高い人格・識見を求められる性質のものであることから、常識と教養、礼儀作法をはじめとする対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していく総合的な人間力など、変化の時代を生きる社会人に必要な資質能力をも十分に兼ね備えていなければならない。

教職とは、日々変化する子どもの教育に携わり、子どもの可能性を拓く創造的な職業である。このため、教員には、常に研究と修養に努め、専門性の向上を図ることが求められている。教員には「学びの精神」がこれまで以上に強く求められており、不断に最新の専門的知識や指導技術等を身に付けていくことが重要である。

社会の急激な変化や複雑化・多様化する学校現場を取り巻く課題に対応するため、教員が多様な専門性をもつ人材と連携・分担してチームとして職務を担っていく必要もある。また、近年の教員の大量退職、大量採用の影響等で教員の経験年数の均衡が崩れてきており、それぞれの教師のキャリアステージに応じた研修の充実が重要となっている。校長として、意図的そして継続的に継承されていく研修の設定を行い、個々の学校経営参画意識を高めていく必要が叫ばれている。

2. 「研究課題」を究明する視点

(1) 教員の資質や能力の向上を目指した研究・研修体制の充実

- ・教職員の人間力を培い、専門性を発揮して教育力と授業力を高める研修体制の確立
- ・教職員一人一人が研鑽を積み、専門性・人間性を高める自己変革の実現

(2) キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

- ・ミドルリーダーに求められる資質・能力を引き出し、その育成に向けた学校づくりの推進
- ・管理職としての資質・能力の向上を図る具体的方策

3. 分科会の方向性と「研究視点」に関する研究資料

中央教育審議会（答申）

これからの学校教育を担う教員の資質・能力の向上について 平成 27 年 12 月 21 日

【これからの時代の教員に求められる資質能力】

- これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力。
- アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化・教科化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量。
- 「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力。

【教員の養成・採用・研修に関する課題】

（1）教員研修に関する課題

国、教育委員会、学校、その他の関係者等が一体となって、チームとしての学校の力の向上を図る措置を講じることによって、研修のための機会を確保した上で、大学等を含めた関係機関との有機的連携を図りながら、教員のキャリアステージに応じ、教員のニーズも踏まえた研修を効果的・効率的に行う必要がある。

また、法定研修である初任者研修、十年経験者研修については、実施状況や教育委員会・学校現場のニーズを把握し、制度や運用の見直しを図ることが必要である。

（4）教員の養成・採用・研修を通じた課題

教員の養成・採用・研修の各段階において教職大学院を含む大学等と教育委員会の連携が必要であり、そのための具体的な制度的枠組みが必要である。すなわち、教員のキャリアステージに応じた学びや成長を支えていくため、養成・研修を計画・実施する際の基軸となる教員の育成指標を教育委員会と大学等が協働して作成するなど、連携強化を図る具体的な制度を構築することが必要である。また、ICTの利活用、特別支援教育、外国語教育、道徳など新たな教育課題や、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善などに対応した教員養成・研修が必要である。

【改革の具体的な方向性】

（1）教員研修に関する改革の具体的な方向性

「教員は学校で育つ」ものであり、同僚の教員とともに支え合いながら OJT を通じて日常的に学び合う校内研修の充実や、自ら課題を持って自律的、主体的に行う研修に対する支援のための方策を講じる。

① 継続的な研修の推進

- ◆ 国及び教育委員会等は、経験年数の異なる教員同士のチーム研修やベテランの教員やミドルリーダークラスの教員がメンターとして若手教員等を育成するメンター方式の研修等の先進的事例を踏まえた校内研修の充実を図る方策について検討する。
- ◆ 教育委員会は、管理職に対する研修の実施や校内研修リーダーの養成、校内研修実施のための手段（ツール）や資源（リソース）等の整備を推進する。
- ◆ 学校内においては、校長のリーダーシップの下、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備し、組織的・継続的な研修を推進する。
- ◆ 大学等と連携した研修や受講した研修の単位化などについて協議する仕組みを構築する。

② 初任者研修の改革

- ◆ 国は、各都道府県等の状況を踏まえ、効果的な若手教員研修が行えるよう、初任者研修の運用方針を見直す。
- ◆ 国及び教育委員会等は上述のチーム研修やメンター方式の研修を参考に組織的な初任者研修について改善方策を検討する。

- ◆ 国は、引き続き必要な定数措置に努めるとともに、研修実施手段（ツール）や資源（リソース）の確保等の必要な支援を講じる。
- ③ 十年経験者研修の改革
 - ◆ 国は、教員免許更新制の意義や位置づけを踏まえつつ、十年経験者研修を十年が経過した時点で受講すべき研修から学校内でミドルリーダーとなるべき人材を育成すべき研修に転換し、それぞれの地域の実情に応じ任命権者が定める年数に達した後に受講できるよう実施時期を弾力化する。
- ④ 研修実施体制の整備・充実
 - ◆ チーム学校の理念の下、国及び教育委員会は、事務職員や専門能力スタッフの活用を推進するとともに、国はオンライン研修の普及、研修機会の確保 やアクティブ・ラーニングの視点に立った学びの推進等に必要な教職員定数の拡充を図る。
 - ◆ 国は、新たな課題に対応した研修手法やプログラムの開発・評価・普及を図るため、研修リーダーの養成や指導教諭の職務の明確化、指導教諭・指導主事の配置促進等、指導体制の充実を図る。
- ⑤ 独立行政法人教員研修センターの機能強化
 - ◆ 独立行政法人教員研修センターは、各地域における教員研修施設や教職大学院などの大学等とのネットワークを構築しつつ、教員の各キャリアの段階を通じた資質能力向上に関する調査、分析、研究開発や情報の整理、収集、提供等を担う全国的な拠点として機能強化を図る。

教育振興基本計画（第3期計画）

平成30年6月15日

5. 教育政策推進のための基盤を整備する目標（16）

新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等教師の養成、採用、研修の充実や、魅力ある優れた教師の確保・資質能力の向上を進めるとともに、学校の指導・事務体制の効果的な強化・充実、専門スタッフとの連携・分担体制構築等を通じて、教師が本来行うべき教育に関する業務に集中できる持続可能な学校指導体制を整備する。

○ これからの学校教育を担う教師の資質能力の向上

- ・ 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築と併せて、新たな時代の教育に対応できる質の高い教師の確保・資質の向上を図るため、教職生活の全体を通じて学び続ける教師を支援するための養成・採用・研修の一体的な改革を着実に進める。具体的には、就学前から初等中等教育段階を通じて、全ての子供が質の高い教育を受けられるよう、各地域における教育委員会と大学等が教師の資質向上に係るビジョンを共有するための協議会において策定される「校長及び教員の資質の向上に関する指標」等に基づく取組を促進する。
- ・ 養成段階について、外国語教育、道徳教育などの充実や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進、特別支援教育の推進等に対応した教員養成への転換や、学校インターンシップの導入、教職大学院の充実等を一層推進する。
- ・ 採用段階について、教員採用試験の共同作成に関する検討や、特別免許状の活用等による多様な人材確保等を進める。また、独立行政法人教職員支援機構や独立行政法人国立特別支援教育総合研究所によるオンラインを通じた研修教材の提供を推進するとともに、現職研修において、校内研修やチーム研修の推進、大学、教職大学院等との連携など継続的な研修を推進する。同時に初任者研修と2、3年目の研修との接続の促進、マネジメント力の強化のための管理職研修など、研修の改革を推進する。
- ・ 教員免許更新制については、必修領域の見直しと選択必修領域の導入を実施し、現代的な教育課題に対応できる枠組み・内容に改善87したところであり、運用の状況を踏まえつつ、受講者のニーズに応じた講習の質の向上など、必要に応じて制度の運用面の改善について検討を進める。
- ・ 教職員一人一人の能力や業績を適切に評価する教職員評価の実施と、評価結果の教職員の処遇等への適切な反映を促進する。あわせて、優秀な教職員の表彰を行う。さらに、指導が不適切な教師に対する指導改善研修の実施、不適切な服務上の問題への厳正な対応や、教職員のメンタルヘルス対策等適切な人事管理の促進や、勤務状況を踏まえた処遇の見直しの検討を進める。

(2) 小学校・中学校・義務教育学校版教員育成指標

※「養成段階」…「養成段階」には、新規に採用する教員に対して任命権者が求める資質能力を掲載

求める教員像	小学校・中学校・義務教育学校版教員育成指標				
	キャリアステージ キーとなる資質能力	養成段階*	初任段階	中堅段階	ベテラン段階
教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情を、常に持ち続ける教員	使命感や責任感・倫理観	・教育公務員として遵守すべき法令や職務等を理解している。	・教育公務員に係る法令等を遵守するとともに、法令等で定められた職務上の義務を果たしている。	・教育公務員に係る法令等を遵守するとともに、法令等で定められた職務上の義務を果たし、子どもや保護者等の期待に応える教育活動を行っている。	・教育公務員に係る法令等を遵守するとともに、法令等で定められた職務上の義務を果たすことはもとより、職場全体の意識が高まるような働きかけを行っている。
	教育的愛情	・子ども一人一人のよさや可能性に目を向けようとしている。	・子どもへの愛情に基づき、子ども一人一人のよさや可能性を伸ばしている。	・子どもへの愛情に基づき、学校の教育活動を推進している。	・子どもへの愛情に基づき、学校の教育活動を推進するため、職場全体の意識が高まるような働きかけを行っている。
	総合的人間力	・社会体験等を通して、人間性、社会性、協調性を身に付けている。	・上司や同僚、保護者との関わりの中で、人間性、社会性、協調性を高めている。	・上司や同僚、保護者、地域との関わりの中で、人間性、社会性、協調性をバランスよく高めている。	・教職員相互に、人間性、社会性、協調性をバランスよく高める校内体制を整えている。
	教職に対する強い情熱・人権意識	・人権意識に基づき、地域のボランティア活動や実習先の学校の教育活動において、すべての子どもを尊重しようとしている。	・人権意識に基づき、地域の行事や社会教育活動、学校の教育活動において、すべての子どもを尊重するとともに、教職への誇りを有している。	・人権意識に基づき、すべての子どもを尊重するとともに、教職への誇りを有している。	・人権意識に基づき、すべての子どもを尊重するとともに、教職への誇りを有し、職場全体の意識が高まるような働きかけを行っている。
	主体的に学び続ける姿勢	・研修の法的な位置付けや、情報の収集・選択・活用の重要性を理解している。	・初任段階教員研修等や情報の収集・選択・活用を通して、実践的指導力など、初任段階に求められる資質能力を身に付けようとしている。	・学校の課題を理解し、解決するための校内外の研修に積極的に参加するとともに、適切な情報の活用・再構成などを通して、高度な指導力など、中堅段階に求められる資質能力を高めている。	・組織的・協働的な体制づくりの重要性を理解し、組織マネジメント等の研修に積極的に参加するとともに、適切な情報の活用・再構成などを通して、人材育成や地域との連携・協働など、ベテラン段階に求められる資質能力を高めている。
教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員	子ども理解力	・子ども理解の意義や重要性を理解し、子ども一人一人に積極的に関わろうとしている。	・子ども一人一人のよさや可能性をはじめ、家庭環境などを理解して子どもと向き合っている。	・子どもを取り巻く様々な環境や背景を含め、子ども一人一人を的確に理解している。	・子ども一人一人を的確に理解するとともに、教職員相互に情報を共有できる校内体制を整えている。
	教科等や教職に関する専門的な知識・技能	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。 ・教科等の内容に関する専門的な知識・技能を身に付けている。 ・自律的に研修を進めるための基礎的な知識・技能を身に付けている。	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識・技能を身に付け、職務に生かしている。 ・教科等の内容に関する専門的な知識・技能を身に付け、授業に生かしている。 ・自らの課題解決に向け、自律的に研修を進めている。	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する深い知識・技能を身に付け、職務に生かしている。 ・教科等の内容に関する専門的な知識・技能を身に付け、授業に生かすとともに、初任段階の教員に指導助言している。 ・学校の課題の解決に向け、自律的に研修を進めている。	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する深い知識・技能を身に付け、職務や職場の意識向上に生かしている。 ・教科等の内容に関する専門的な知識・技能を校内研修など職場全体に生かしている。 ・学校の課題の解決に向け、自律的に研修を進める校内体制を整えている。
	実践的指導力	・学習指導要領を踏まえ、ねらいを明確にした指導案を作成し、意図的な授業を展開することの重要性を理解している。	・学習指導要領を踏まえ、ねらいを明確にした指導案を作成し、子どもの考えを生かしながら意図的・計画的に授業を展開している。	・学習指導要領の理解など、専門性を高め、ねらいを達成できる指導案を作成し、子どもの考えを生かしながら意図的・計画的に授業を展開している。	・学習指導要領の理解など、専門性を一層高め、ねらいを達成できる指導案を作成し、子どもの考えを生かしながら意図的・計画的に授業を展開するとともに、範を示したり、これまでの経験を踏まえた「心構え」や「コツ」を伝えたりしている。
	生徒指導・進路指導力	・個や集団を指導する意義や重要性、手立てを理解している。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導の重要性を理解している。	・子どもの発するサインを見逃さず予防的な対応を行っている。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導を行っている。	・校内での情報共有に努めながら客観的な事実の把握を行っている。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導を行うとともに、自校の生徒指導・進路指導上の課題解決に向けて取り組んでいる。	・学校の生徒指導・進路指導上の課題解決に向け具体的な方策を提案している。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導を行うとともに、範を示したり、これまでの経験を踏まえた「心構え」や「コツ」を伝えたりしている。
学級経営力	・年間を見通した学級経営の重要性、学級担任の役割や職務内容を理解している。	・子ども理解に基づく学級経営を計画的に行い、よりよい学びの環境をつくっている。	・子ども理解に基づく学級経営を計画的に行い、望ましい集団をつくっている。	・望ましい学級経営について範を示したり、これまでの経験を踏まえた「心構え」や「コツ」を伝えたりしている。	
新たな教育課題への対応力	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」への対応力	・「主体的・対話的で深い学び」が求められる背景や重要性について理解している。	・「主体的・対話的で深い学び」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校における「主体的・対話的で深い学び」推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校における「主体的・対話的で深い学び」推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「カリキュラム・マネジメント」への対応力	・「カリキュラム・マネジメント」が求められる背景や重要性について理解している。	・「カリキュラム・マネジメント」が求められる背景や重要性について理解し、教育活動に生かしている。	・学校における「カリキュラム・マネジメント」推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校における「カリキュラム・マネジメント」推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「ICTを活用した指導」への対応力	・「ICTを活用した指導」が求められる背景や重要性について理解している。	・「ICTを活用した指導」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校における「ICTを活用した指導」推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校における「ICTを活用した指導」推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。

北海道における教員育成指標 平成29年12月 北海道教育委員会

	「道徳教育の充実」への対応力	・「道徳教育の充実」が求められる背景や重要性について理解している。	・「道徳教育の充実」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校における道徳教育推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校における道徳教育推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「外国語教育の充実」への対応力	・「外国語教育の充実」が求められる背景や重要性について理解している。	・「外国語教育の充実」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校における外国語教育推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校における外国語教育推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「特別支援教育の充実」への対応力	・特別支援教育の動向や具体的な支援内容、支援体制等について理解している。	・特別支援教育の動向や具体的な支援内容、支援体制等について理解し、特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズ等に対応している。	・特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズ等に的確に対応するとともに、学校における特別支援教育推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校における特別支援教育推進上の課題解決に向けて取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
学校づくりを担う一員として、地域等と連携・協働しながら課題を解決し、課題に取り組む教員	学校づくりを担う一員としての自覚と協働性	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を理解している。	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を理解し、それに基づき行動している。	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を深く理解し、それに基づき行動するとともに、経験の浅い教職員に指導助言を行っている。	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を深く理解し、それに基づき職場で率先して行動するとともに、社会性を向上させる職場意識を高める校内体制を整えている。
	コミュニケーション能力（対人関係能力を含む）	・自らの考えや意見などを相手に分かりやすく伝えるとともに、相手の考えの傾聴に努めるなど、互いを尊重して意思疎通を行っている。	・自らの考えや学校の方針等を子どもや保護者等に分かりやすく伝えるとともに、相手の意図を正確に理解し、円滑に意思疎通を行っている。	・自らの考えや学校の方針等を子どもや保護者、地域等に分かりやすく説明するとともに、相手が意図する背景を含めて正確に理解し、新たな方向性を見出すなど発展的な意思疎通を行っている。	・自らの考えや学校の方針等を子どもや保護者、地域等の立場に配慮しながら分かりやすく説明するとともに、相手が意図する背景を含めて正確に理解し、課題解決に向けて共通認識に立ち実際の行動につながる意思疎通を行っている。
	組織的・協働的な課題対応・解決能力	・集団の中で協働的に行動することの重要性を理解している。	・組織の一員としての自覚をもって学校づくりに関わり、求められる役割を果たしている。	・組織の一員として積極的に学校づくりに関わり、互いのよさを認め合い、それぞれの能力を生かして計画的に課題解決に当たっている。	・全校的な視野に立ち、一人一人の役割と能力を生かして計画的に課題解決に当たっている。
	地域等との連携・協働力	・保護者や地域等との連携の重要性を理解している。	・保護者や地域等との連携の重要性を理解し、積極的に関わり、連携・協働して対応している。	・保護者・地域・関係機関等との関わりを深め、連携・協働して対応している。	・保護者・地域・関係機関等との連携・協働のネットワークを構築して学校の運営に当たっている。
	人材育成に貢献する力	・他者の意見やアドバイスを耳を傾け、互いに高め合おうとしている。	・他の教職員との関わりを大切にし、疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、互いに高め合おうとしている。	・互いの課題や悩みに関心し、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員に指導助言を行っている。	・人材育成の重要性を踏まえ、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員への指導助言やミッドリーダーの育成に取り組んでいる。

※小学校・中学校・義務教育学校版教員育成指標については、中等教育学校（前期課程）においても活用することができます。

平成29年度文部科学白書 文部科学省

第12節 きめ細かで質の高い教育に対応するための教職員等の指導體制の整備

1 教員の資質能力の向上

(1) 教師の養成・採用・研修の一体的な取組

- ① 教師の養成における取組
- ② 教師の採用における取組
- ③ 教師の研修における取組

教師には、その職責を遂行するため絶えず研究と修養に努めることが求められており、様々な研修が実施されています。

教職員支援機構（NITS）では、各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長・教頭・中堅教師・事務職員等に対する学校経営研修や、いじめ・道徳教育などの喫緊の重要課題について地方公共団体が行う研修の講師や企画・立案などを担う指導者を養成するための研修等により、地域の中核となるリーダーを養成しています。平成29年度には、その研修成果の活用の促進や、実践活動の好事例の共有を目的として、学校をとりまく課題の解決に向けて実践した取組を広く募集し、表彰・公開することにより、教育現場に優れた取組を普及していく表彰事業（NITS大賞）を実施するとともに、職務多忙等から、職場を離れての研修参加が困難な教師等に多様な研修の機会を提供することを目的として、校内研修でも活用できる20分程度のオンライン講義動画を新たに50タイトル提供しました。